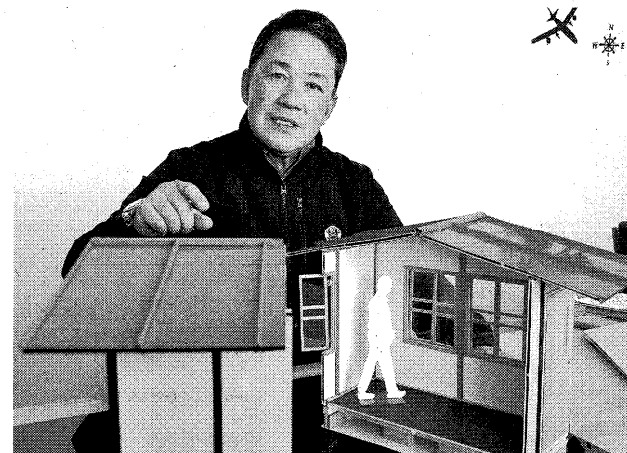


プレハブの原点復元 ものづくり大 図面引き部材製作 ミゼットハウス 組み立て3時間



戦後誕生したプレハブ住宅の原点ともいわれる建物「ミゼットハウス」を、ものづくり大学（行田市前谷）の技能工芸学部建設学科の学生たちが復元した。開発したメーカーにも資料がほとんど残っておらず、研究も進んでいなかった。2015年から5年間、代々の4年生が卒業研究として引き継ぎ、図面から部材製作、組み立てまでを行い、一から完成させた。

（米山士郎）



ミゼットハウスは、戦後のベビーブームで家族が増えて家が手狭になり、庭に建てる子ども用の勉強部屋として、1959年に大和ハウス工業が開発した。建築現場で部材を切り刻んでいた時代に、事前に工場で作った部材を現場で組み立てるだけという工法が建築業界に革命をもたらした。

ミゼットハウス 組み立て3時間

●大和ハウスグループのホテルに寄贈するミゼットハウスを組み立てる、ものづくり大学の4年生ら（3月9日、石川県志賀町）（ものづくり大学提供）
●「ミゼットハウスは部材の種類が少なく、シンプルなのが特徴」と話す三原斉教授（行田市前谷のものづくり大学）

組み立ての所要時間は3時間。価格も4畳半サイズで現在の貨幣価値で80万円程度。スピーディーで低価格であることから、爆発的な人気を呼んだ。他メーカーも追随し、競争の中で進化を続け、現代のプレハブ住宅へとつながっていく。

このミゼットハウスに着目したのは、ものづくり大学の三原斉教授（58）の研究。大和ハウスにも基本的な図面が数枚残っているだけで、どのように作ったのかも分からない。そこで、国内で2棟しか現存が確認されていないミゼットハウスのうち、大和ハウスが所有するものを現地調査。一つ一つの部材まで約80枚の

図面に描き起こし、模型を作った。当時の施工業者の聞き取りも行い、歴史を調べた。

その次は部材の製作。鉄骨作りでは当時の4年生たちが工場に通い、工場長に図面の描き方から溶接まで指導を受けた。その翌年には次の4年生たちが壁や屋根、建具など内外装を作った。15年4月から20年3月まで、計9人の学生が引き継ぎながら復元を成し遂げた。

今年3月9日には、石川県内にある大和ハウスグループのホテルで発表会が行われ、先輩たちの教えを受けた現役の4年生8人がミゼットハウスを組み立てた。かかった時間は、ほぼ目標通りの約3時間。三原教授は「精度が良く、120点の出来だった」と笑顔を浮かべる。

三原教授はこれまで関わってきた学生たちのことを振り返り、「プレハブがどのような進化していったのか、変遷を知っていることが新しい開発につながる。（今回のことは）学生が社会に出た時の財産になる。占くても良いものは常に新しい」と話している。

プレハブの原点復元

ものづくり大 図面引き部材製作